



□ 5 □

柔道 牛方美羽・木村優花(生光学園)

柔道女子の生光学園を引く張る牛方美羽と木村優花の2年生コンビは、ともに県外出身。全国で活躍できる選手を目指し、強豪として台頭著しい同校を進学先に選んだ。6月の四国選手権では2人とも個人戦で女王となり、団体戦も同校初の優勝に導いた。「ライバルであり仲の良い友人」と認め合う2人。切磋琢磨でつさたくましくしながら、全国の大舞台で上位入賞を狙っている。

牛方は福岡県筑前町出身。オープンスクールで来校した際、充実した練習環境を見て気に入ったのが、入学の決め手となった。174センチ、90キロ。体重無差別の「最強決定戦」と言われる4月の全日本女子選手権で、高校ながら四国代表として大会最年少での出場を果たした。格上相手に初戦敗退となったが、東京五輪メダリストも複数出場した国内最高峰の舞台で大きな経験を積んだ。

積極性と豪快な大外刈りが持ち味。県総体と四国選手権では個人78キロ超級、団体とも相手を圧倒した。攻撃、防御両面で高い技術を持ち「負けない柔道」が

大舞台で上位入賞狙う



全国総体での上位入賞を目指し、練習に取り組む生光学園の木村(左)と牛方=徳島市の同校

きるとして、団体戦では大將を任されている。

そんな牛方と同等の実力を持つ木村は165センチ、63キロ。生光学園の伊田真粧美監督の生家である同市の名門道場・志翔館で小学校から柔道を学び、かつて道場で教えるものの、敏しな性が高く、練習の組み手での対戦成績は互角だ。京都市出身。けいたいと、同校を選んだ。

立ち技と寝技いずれも得意なオールラウンダーで、内股や腹包みで一本を量産する。県総体と四国選手権

では、個人63キロ級で優勝。団体戦では先鋒(せんぽう)を務め、ポイントゲッターとしての役割を担う。伊田監督は「木村が先勝できれば必勝パターンに持ち込める」と期待を寄せる。

2人は寮の同室で、掃除や血洗いなどの家事を分担してこなしたり、休日は一緒に外食したりしている。

大会の対戦相手が決まると動向で何度も相手の特徴を分析し、どう攻略するか意見を戦わせる。練習や試合での反省点、改善点を気兼ねなく言い合い、2人だけで居残り練習することも多い。

1年時から、練習では組み手の強化や全身の筋力アップに取り組んできた。全国切符を得た後は実践練習に重きを置いて本番に備えている。

2人の全国総体での目標は個人、団体ともベスト4。牛方は「大將としての責任感はあるけど、プレッシャーに勝てるよう練習に励んでいく。木村選手と一緒に全国で上位に食い込みたい」。木村は「1戦1戦全力で戦い、一つでも上を目指せるよう頑張る。団体戦では先勝して、チームに良い流れをつくっていきたい」と語った。(富士佳博)